

もの言う牧師のエッセー… 第13話

「マグロが高い！」

アメリカに住んでいて良いことの一つに "生" のマグロがお手頃価格で食べられるというのがある。マグロに関しては遠洋漁業が主体の日本では "冷凍もの" が大部分を占めるが、今から 20 年ほど前の米国では生で“近海もの”の「きはだマグロ」が 1 パウンドあたり 1 ドルぼっきり、「メバチマグロ」でさえパウンドあたり 5 ドル程度だった。が、90 年代が終わりに近づくにつれそれらの値段は急上昇、あっという間に 1 パウンド 10 ドルを突破して 15 ドルから 20 ドルで推移して来た。

そんな折登場したのが回転寿司などに出荷される真空パックの「冷凍マグロ」だ。90 年代半ばに流通し始めた頃はまだパウンドあたり 5 ドル程度で、多くの店が利益確保のためスパイシーナロール用等に使い始めたのを覚えている。

しかしつい先頃、勤め先の寿司屋でその価格が 16 ドルになったのを知った！ 高い！ 生のマグロと安物冷凍マグロが同じ値段になってしまった！ その理由は色々あるが、ここで思い出すのが 最近日本のマスコミなどで騒がれている中国の“爆食”だ。漁獲量、漁民数、消費量において世界一で今や世界の水産物の 40%を消費するとまで言われている。

しかし実際には彼らが食べているのは淡水魚や養殖魚が中心なので、マグロとは無関係であることが少し調べてみれば分る。それどころか中国は日本向けに輸出までしている。では誰のせいだ？ 実は私たち日本人である。マグロの年間消費量は世界で約 200 万トンだが日本だけで約 50 万トン、中国は推定約 1 万トン前後に過ぎない。ここでイエスの言葉を思い出した。

「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、

なぜ自分の目の中の丸太に気付かないのか？」 マタイの福音書 7 章 3 節：共同訳

である。彼は、自分の落ち度を棚に上げて人を非難する人間の身勝手さを通して、私たちの無意識の『罪』を今日も示し続けている。

